

ごみ処理施設整備・運営事業 -事業概要及び工事説明会-



令和5年7月2日

- 1 ごみ処理施設整備・運営事業の概要
- 2 施設整備の内容
- 3 全体工事計画
- 4 直近の工事予定

1 ごみ処理施設整備・運営事業の概要

1. 尾張北部地域のごみ処理施設の現状と広域化
2. 尾張北部環境組合の設置
3. 2市2町と組合の役割分担
4. 実施区域の位置
5. 事業概要
6. 事業関係者
7. 業務工程
8. 収集・運搬の通行ルートと受入計画

1-1. 尾張北部地域のごみ処理施設の現状と広域化

- 国によるごみ処理の広域化を推進する動きを受けて、愛知県では「第2次愛知県ごみ焼却処理広域化計画」を策定
- この計画の中で、犬山市、江南市、大口町、扶桑町からなる2市2町が現在所有している2か所のごみ処理施設を1か所へ統合することとされています。

【既存施設の概要】

江南丹羽環境管理組合
環境美化センター

昭和57年11月
供用開始

150 t / 日



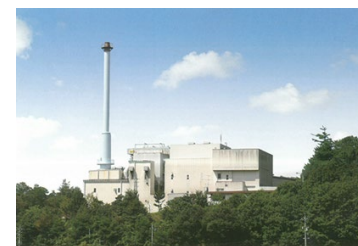
事業実施区域



犬山市
都市美化センター

昭和58年4月
供用開始

135 t / 日



- 効率的かつ確実にごみ処理事業を推進し、循環型社会の形成に取り組むため、平成29年4月に「尾張北部環境組合」を設置
- 広域化計画に基づく2市2町(犬山市・江南市・大口町・扶桑町)の新ごみ処理施設の整備・運営事業を推進しています。
- ※ 組合は、地方公共団体の組織及び運営に関する事項を定めた地方自治法において、「一部事務組合」として、地方公共団体の一つに位置付けられています。

● 「2市2町(犬山市・江南市・大口町・扶桑町)」の役割 ごみの減量化・資源化

▶ごみの減量化・資源化は、2市2町の施策により実施されます。

収集・運搬

▶収集・運搬は、2市2町が実施します。

● 「尾張北部環境組合」の役割

一般廃棄物中間処理

▶ごみ処理施設を新たに整備し、運営します。

灰の再資源化

▶焼却処理後の灰は、民間企業を活用して資源化します。

※ **ごみの資源化**(マテリアルリサイクル推進施設で鉄・アルミ等を回収)

1-4. 実施区域の位置

- 令和3年5月14日に「尾張都市計画ごみ処理施設(一般廃棄物処理施設)」として都市計画決定(決定権者:江南市)されています。

項目	概要
位置	江南市中般若町北浦地内
面積	約3.0ha



1-5. 事業概要

名称	ごみ処理施設整備・運営事業	
事業主体	尾張北部環境組合	
処理量	①エネルギー回収型廃棄物処理施設：194t/日 (※可燃ごみを焼却する施設)	
	②マテリアルリサイクル推進施設：14t/5h (※不燃・粗大ごみを処理する施設)	
事業用地	江南市中般若町北浦地内	
処理方式	全連続燃焼式ストーカ方式	
事業方式	①エネルギー回収型廃棄物処理施設：DB+O (Design-Build-Operate) 方式 (※設計から建設、施設運営までを事業者委託)	
	②マテリアルリサイクル推進施設：DBM (Design-Build-Maintenance) 方式 (※設計、建設、施設維持は事業者委託し、施設運転は組合実施)	
事業期間	1)設計・建設期間：令和5年3月～令和10年3月	
	2)運営期間	①エネルギー回収型廃棄物処理施設：令和10年4月～令和30年3月(20年間) ②マテリアルリサイクル推進施設：令和10年4月～令和20年3月(10年間)

■事業主体

尾張北部環境組合

■設計施工

三菱・佐藤・昭和・松岡特定建設工事共同企業体

- ・三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社 中部支店
- ・佐藤工業株式会社 名古屋支店
- ・昭和土建株式会社 江南支店
- ・松岡建設株式会社

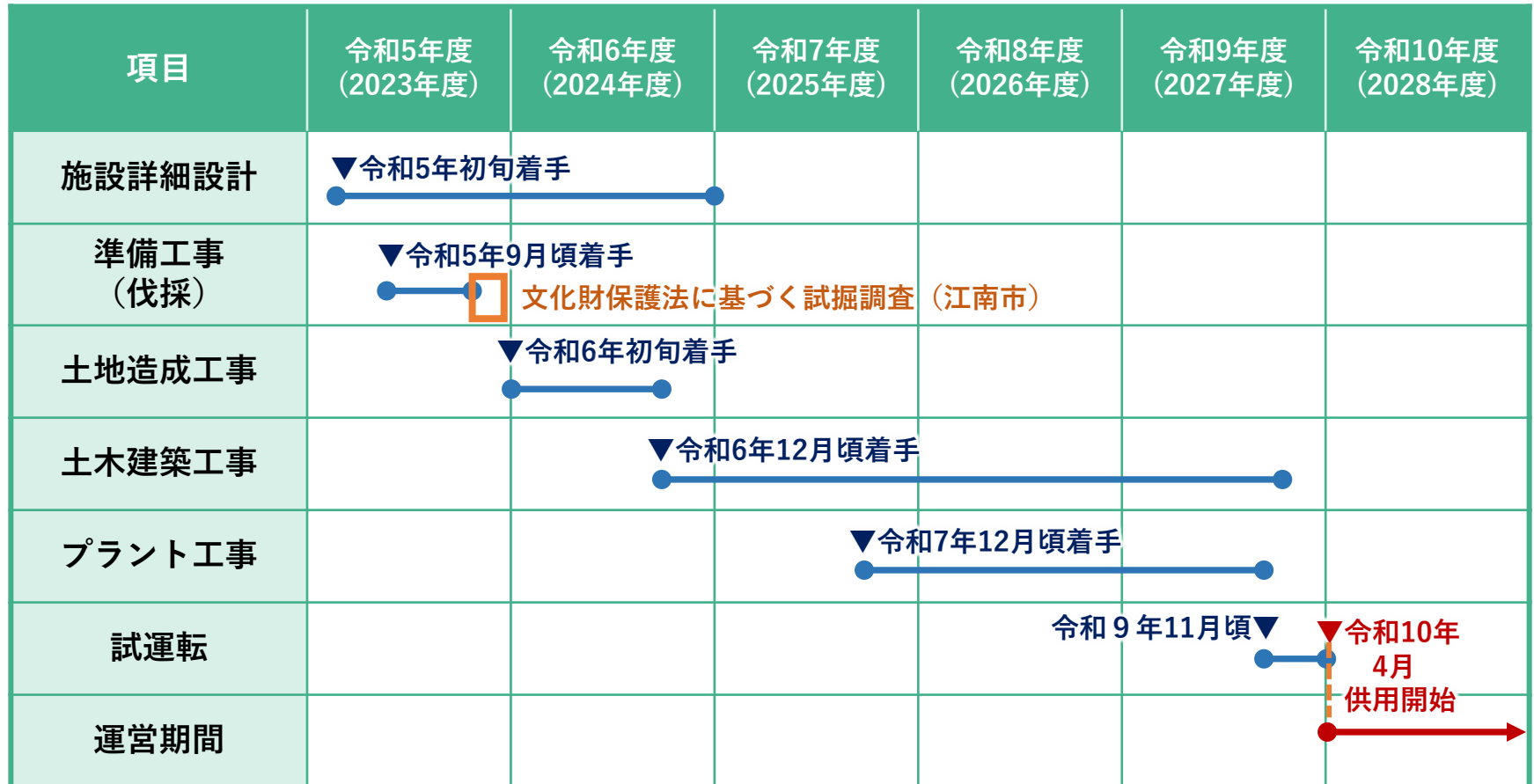
■設計・施工監理

株式会社 エックス都市研究所

■運営委託

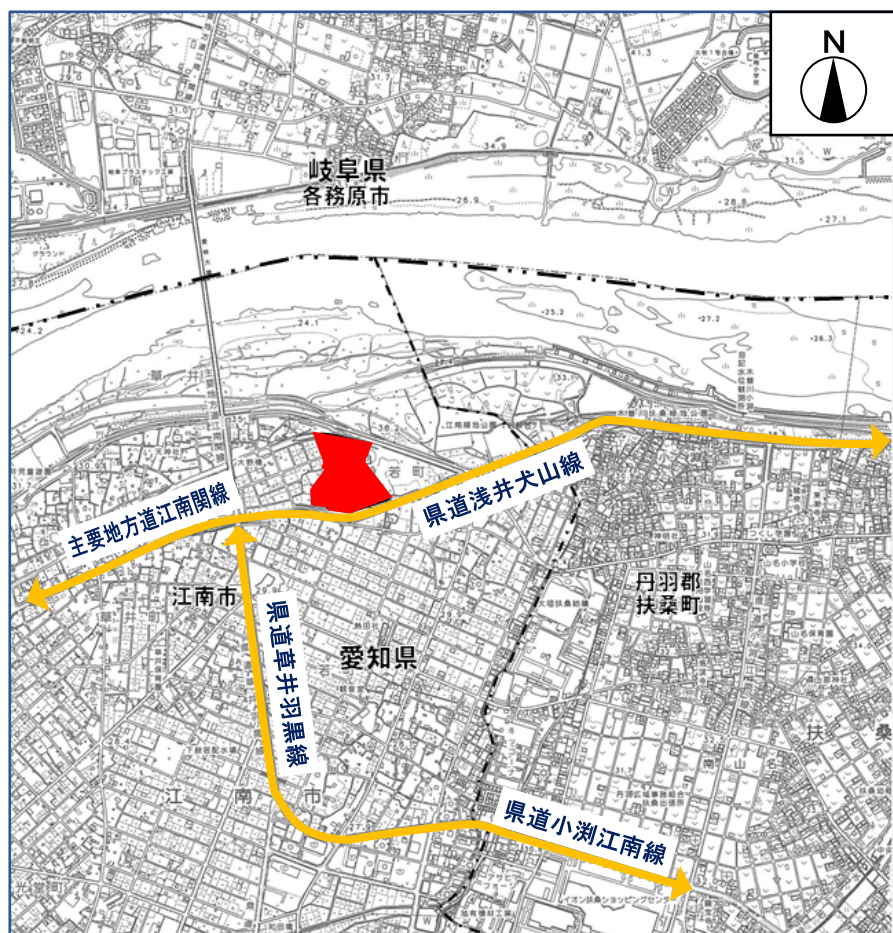
尾張北部エコクリエーション株式会社
重環オペレーション株式会社

1-7. 業務工程



1-8. 収集・運搬等の通行ルートと受入計画

- 収集・運搬は、2市2町が実施します。図は、2市2町からごみ処理施設に至る主要ルートを示しています。
- 2市2町内の詳細ルートは、住民の皆様と情報共有を図りながら、今後、収集運搬業者と調整します。



車両台数（環境影響評価書より）

項目	台/日	
	大型	小型
廃棄物運搬車両	120	—
直接搬入車両	35	132
合計	155	132

- ※ 大型:パッカー車、普通貨物車
- ※ 小型:乗用車、小型貨物車(軽トラック等)

受入計画（予定）

月～金 8:30～17:00

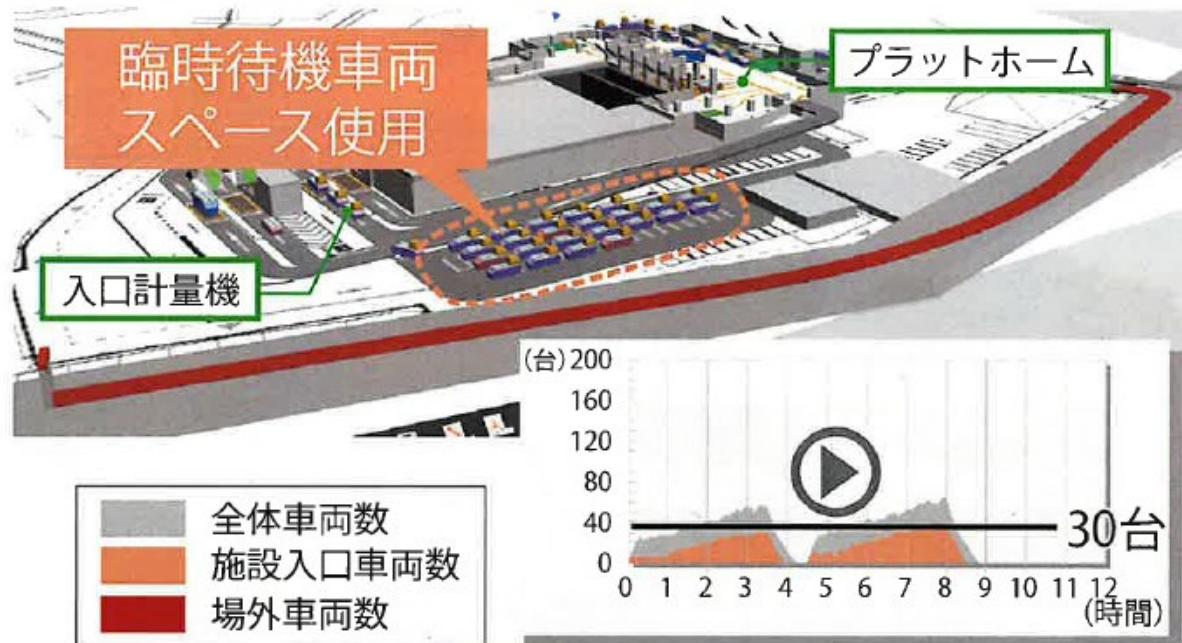
土 8:30～13:30

※ 12/31～1/3を除く

- 直接搬入車両の受け入れ時間、事前予約制の導入などの詳細は2市2町と協議して決定

1-8. 収集・運搬等の通行ルートと受入計画(繁忙期の受入シミュレーション)

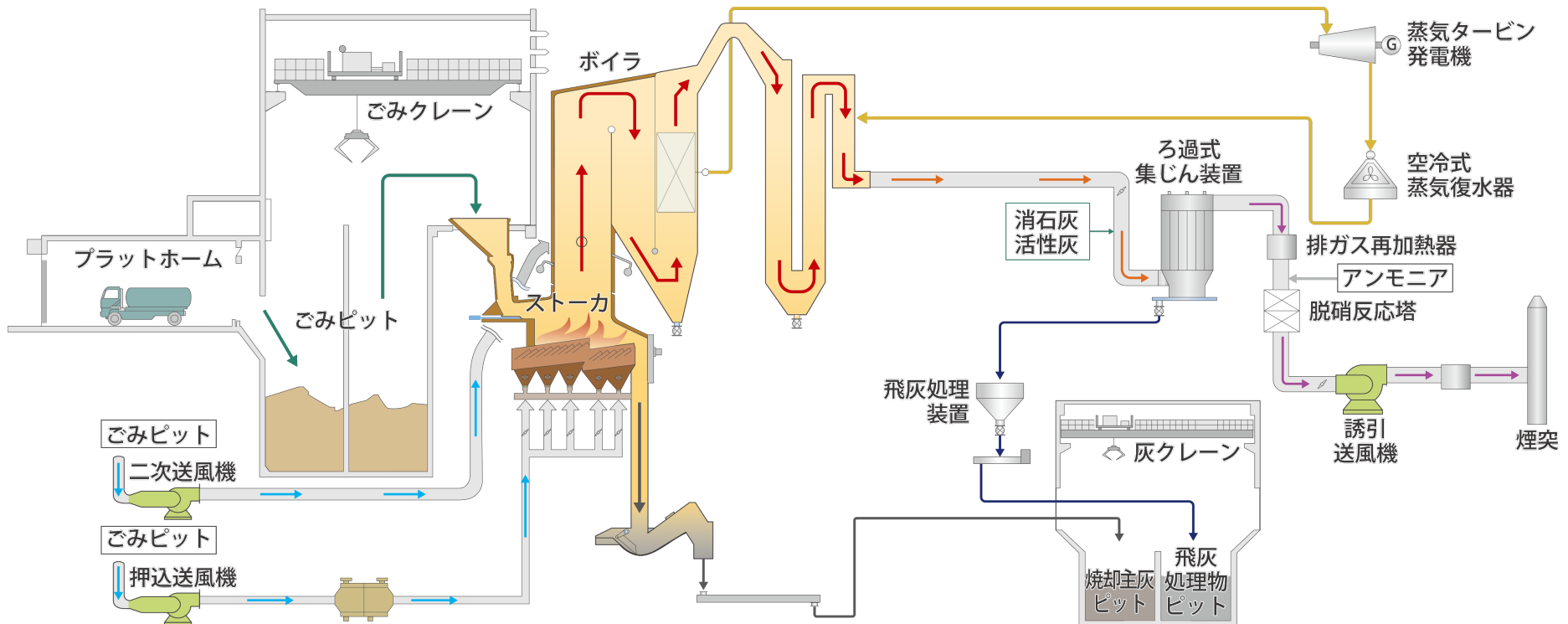
- 環境影響評価では、収集・運搬車両台数は、1日あたり287台(直接搬入車両含む)と想定していますが、ゴールデンウィークや年末など、年に3日程度発生が予想される繁忙期(1日あたり850台:最大想定)であっても、敷地外に渋滞を発生させないようにします。



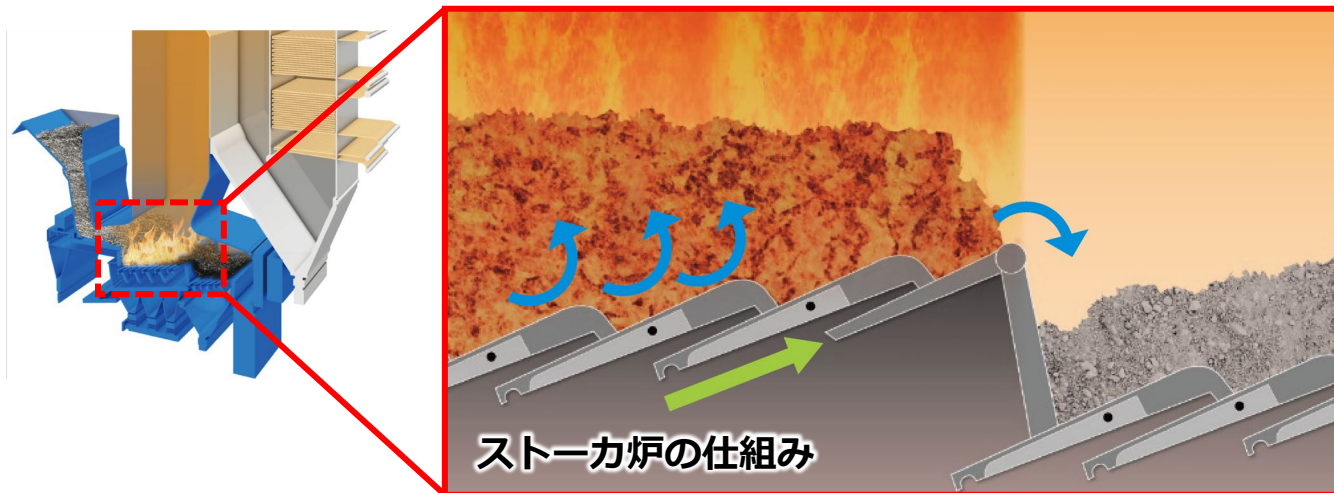
2 施設整備の内容

1. 処理方式と資源化
2. 景観と動線計画
3. 脱炭素と環境保全
4. 施設の災害対策

確実なごみ処理と排ガス基準の遵守



循環型社会実現に適したストーカ式焼却炉を採用



POINT 補助燃料なしでごみが自燃するため、低炭素で環境にやさしい

POINT 国内稼働実績が最多の方式

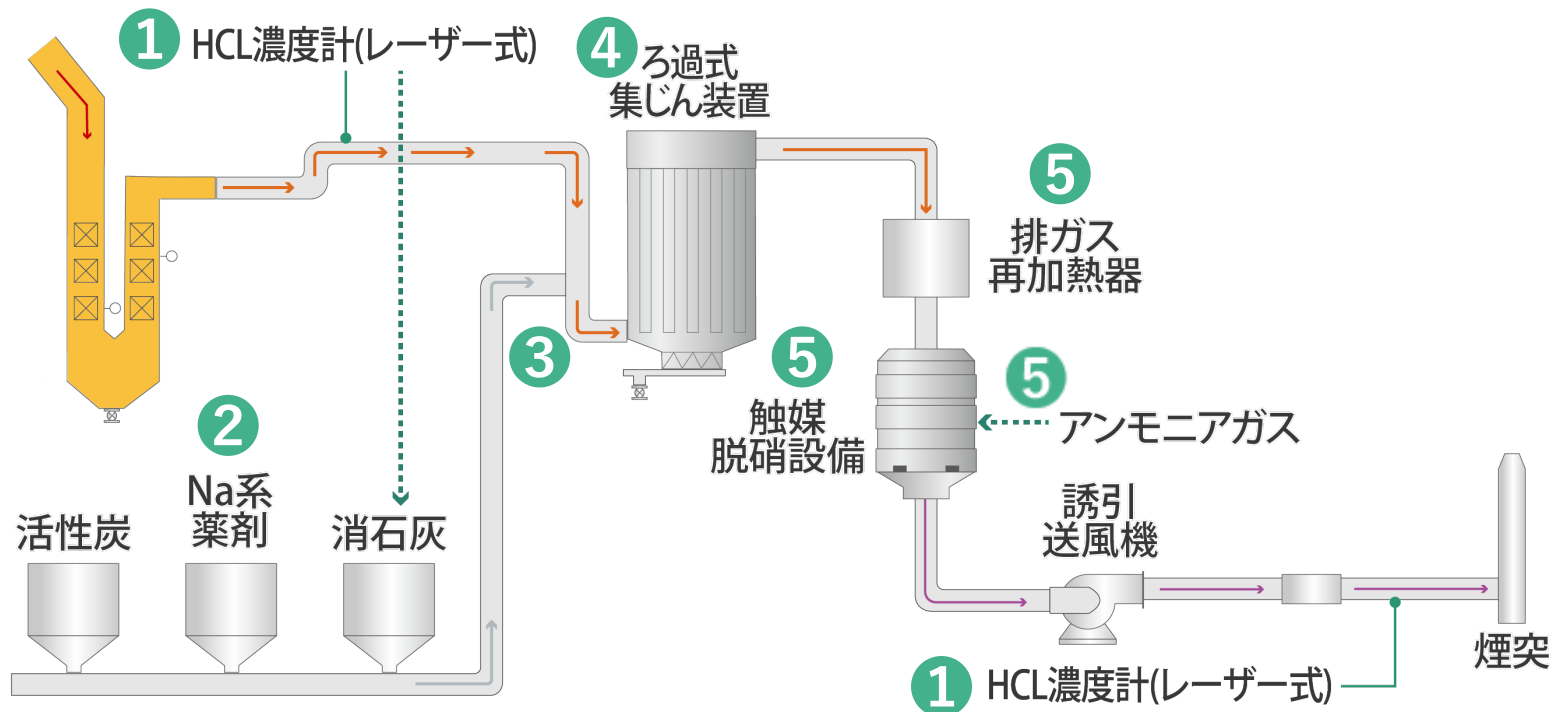
POINT AIを活用した自動燃焼制御

排ガス処理設備の最適設計により国内最高水準の規制値を遵守

燃焼システム
(DXNs・CO・NOx)

①②酸性ガス除去制御

③乾式薬剤吹込ライン



④ろ過式集じん装置

⑤触媒脱硝設備

排ガス基準の遵守

	単位	組合要求水準	
		停止基準	法規制値
ばいじん	g/m ³ N	0.01	0.04
HCl	ppm	10	約430
SO _x	ppm	10	K値=9.0 (約1180ppm相当)
NO _x	ppm	25	250
CO	ppm	30	100

POINT

国内最高水準の基準で管理

排ガス等自主規制値を情報掲示板、HP、公害防止委員会で発信



屋外公害情報掲示板(他施設事例)

情報掲示板掲示項目

排ガス連続測定リアルタイム値

排ガスダイオキシン類
・水銀定期測定値

排ガス法令及び自主規制値

発電電力リアルタイム値

各炉の稼働情報

管理事務所で入力した情報

POINT

環境情報を屋外公害情報掲示板でリアルタイムに提供、
定期測定結果などHPで積極的に情報発信

東海地方2箇所と関東地方1箇所で灰を再資源化

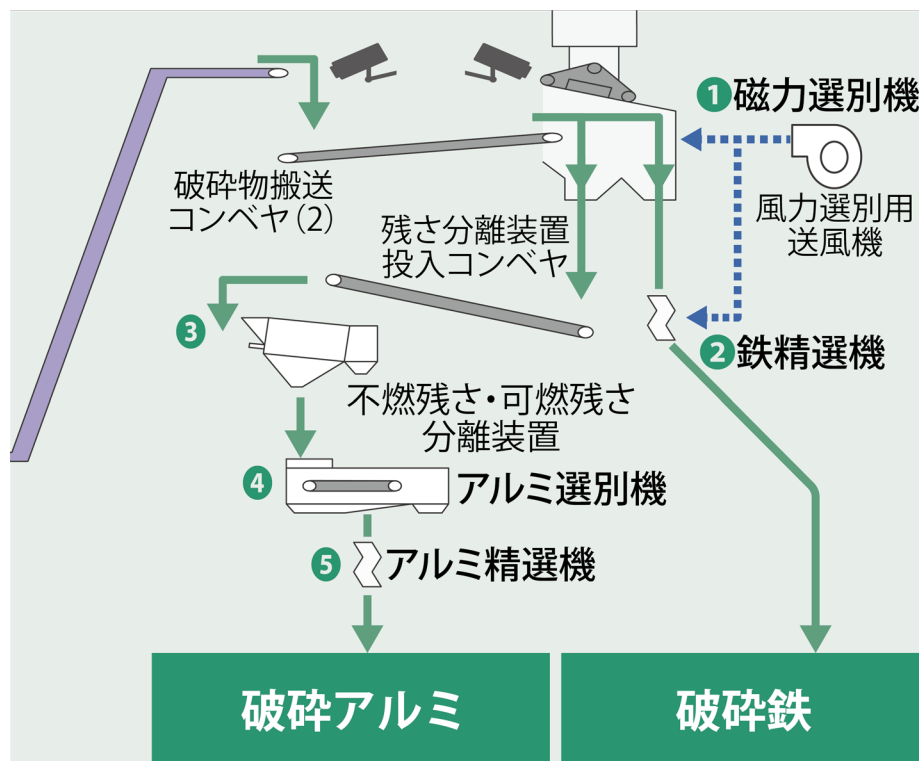


項目	三重中央開発	中部リサイクル	中央電気工業
方法	焼成	溶融	
資源物			
利用用途	土木資材	土木資材	土木資材

POINT 不測の事態にも関東地方、中国地方の資源化工場でバックアップ

POINT 資源化物を有効に利用

豊富な納入実績に基づく設備設計で資源を回収



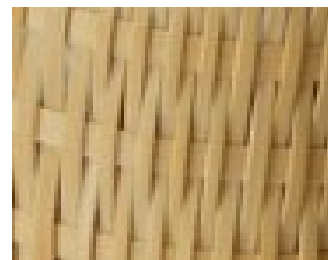
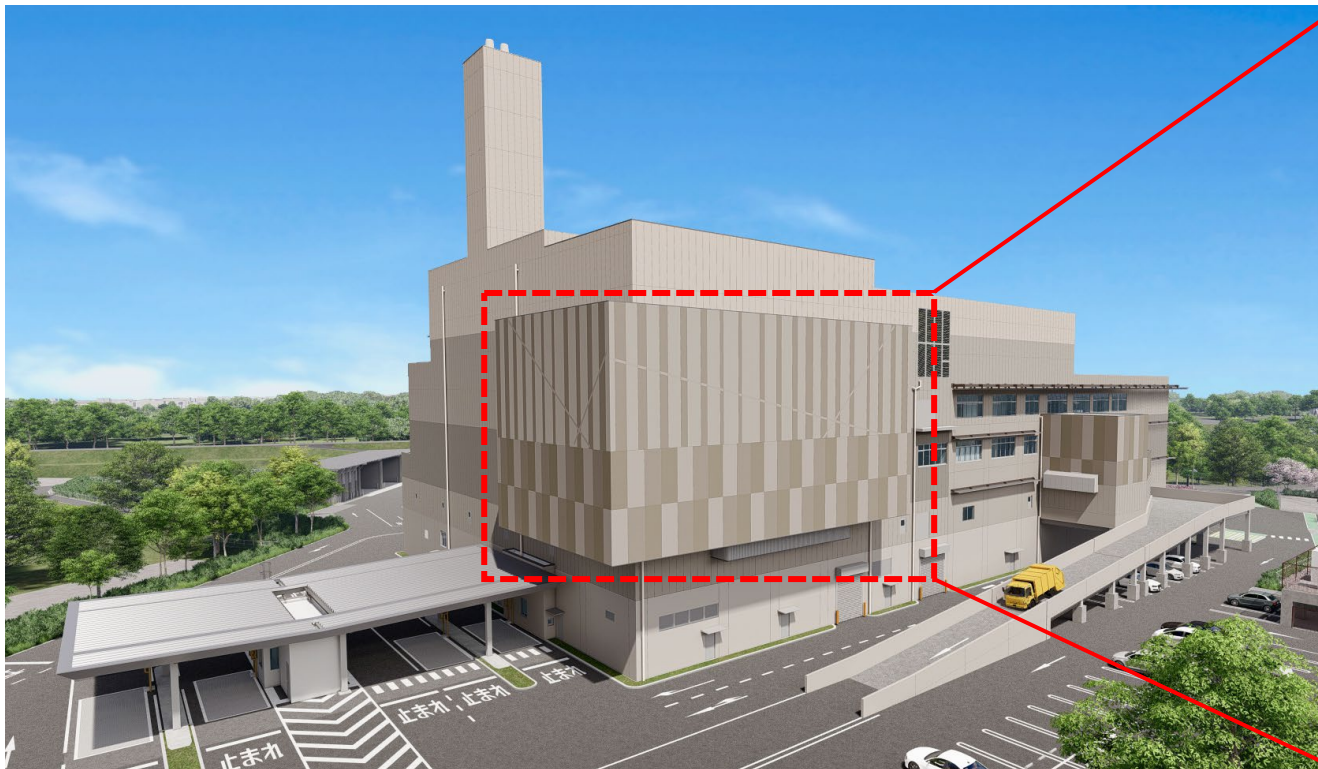
POINT

最適な破碎刃幅の選定や効率的な選別設備の構成

2-2. 景観と動線計画 景観①(上空南側からの視点)



くらしと環境に寄り添う「水とみどり華やぐエコプラント」



籠（かご）/竹組み
モチーフの外壁

ALCデザインパネルで表現

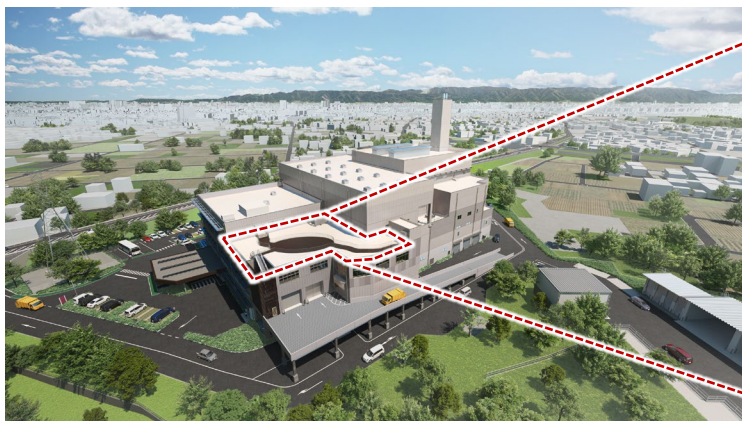
POINT

木曽川沿いの豊かな自然・文化と融和するランドスケープ

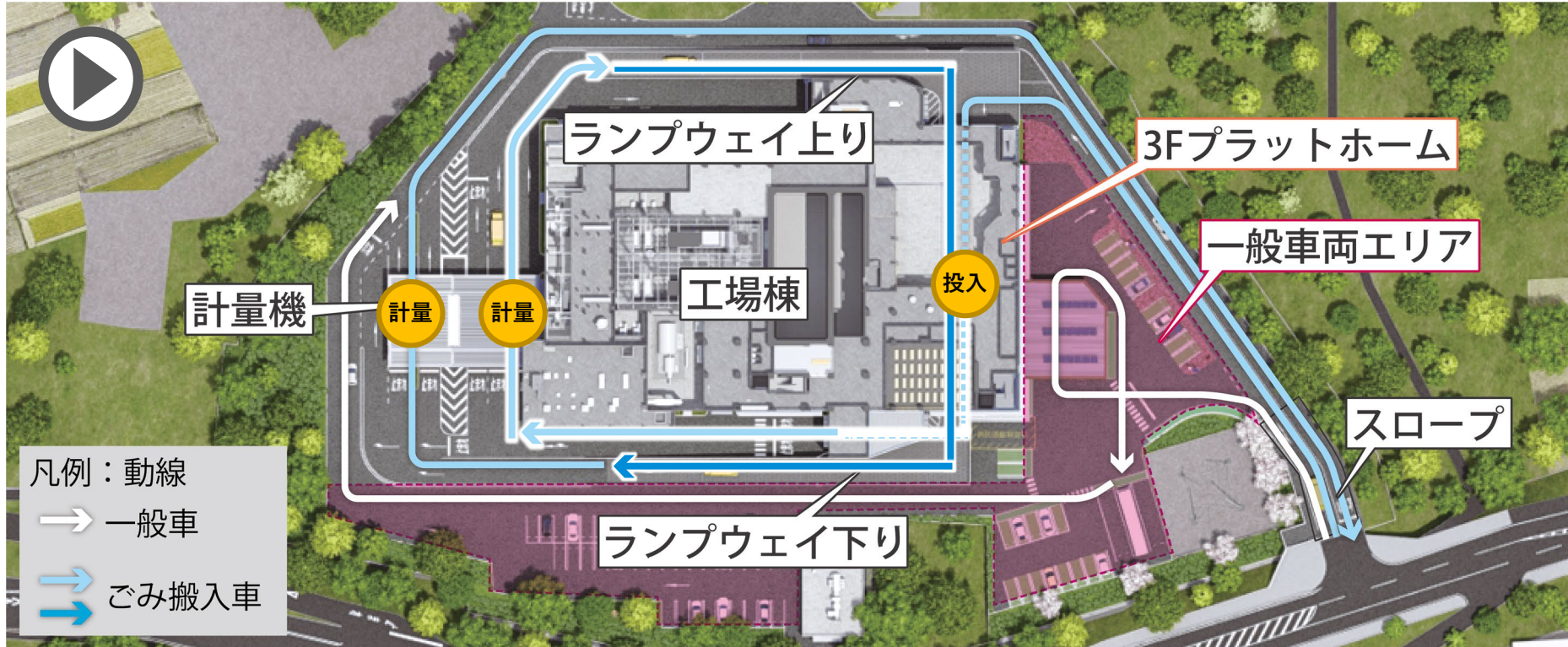
POINT

アースカラーの建屋と日射を調整する庇がやさしく景観と調和

2-2. 景観と動線計画 景観③(屋上デッキ)



完全一方通行によるスムーズな車両動線

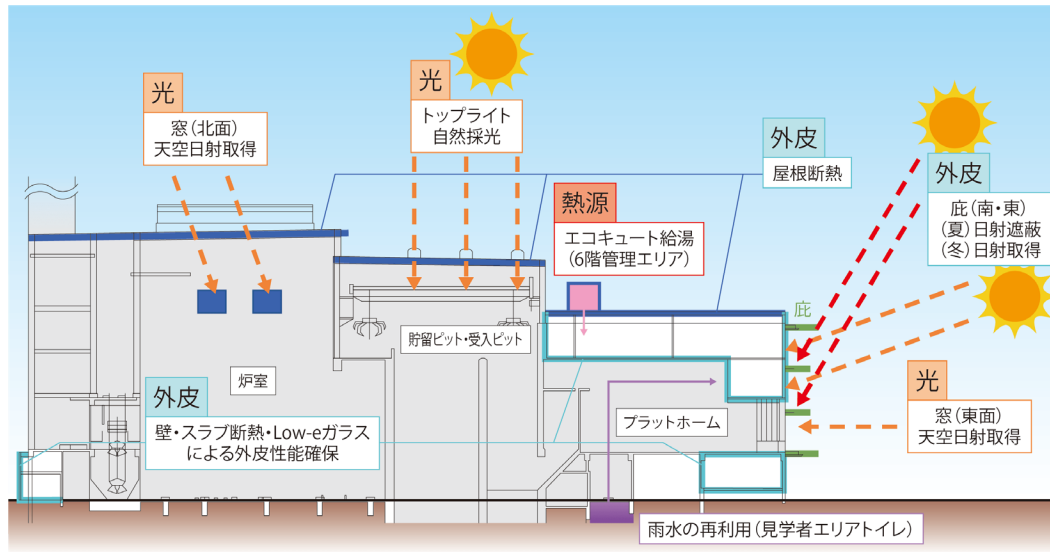


POINT ごみ搬入車と一般車のエリア分け ⇒ 安全確保

POINT 時計回りの完全一方通行 ⇒ スムーズな車両動線

※ランプウェイ:傾斜路、プラットフォーム:ごみ受け入れ場

パッシブデザイン*と省エネ・創エネ技術の併用による環境負荷低減



パッシブデザインシミュレーション

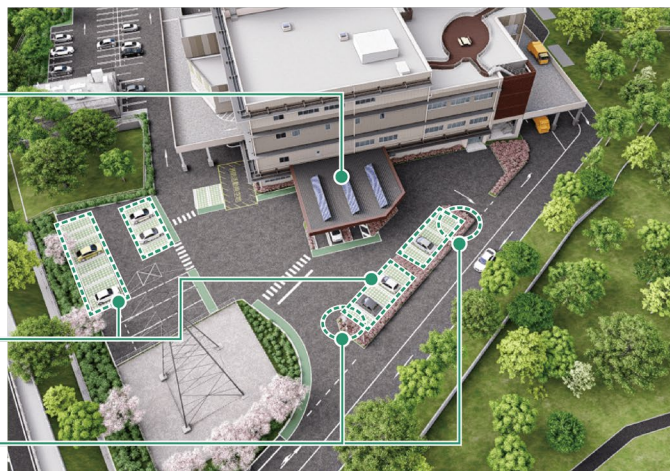


* 太陽の光や熱等、環境がもっているエネルギーを上手に建物に取り込む設計

太陽光発電設備

緑化ブロック

ハイブリッド照明



POINT

日射、雨水、風、緑化等、
環境面でも財政面でも
やさしい施設設計

POINT

自然エネルギーを用いて
省エネ・創エネの推進

生物多様性を主流化し、人と自然が共生する施設

「つくる」健全で良質な緑

- ◆要求水準を上回る緑地面積割合**24%**の達成(6,741㎡)

「まもる」いのちを守る緑

- ◆ビオトープ等を通して、「**生物の移動空間(コリドー)**・**生息空間**」を創出

「いかす」暮らしの質を高める緑

- ◆地域の専門家に植栽計画に入ってもらい、**地元の特長や環境をいかす緑化計画**の推進

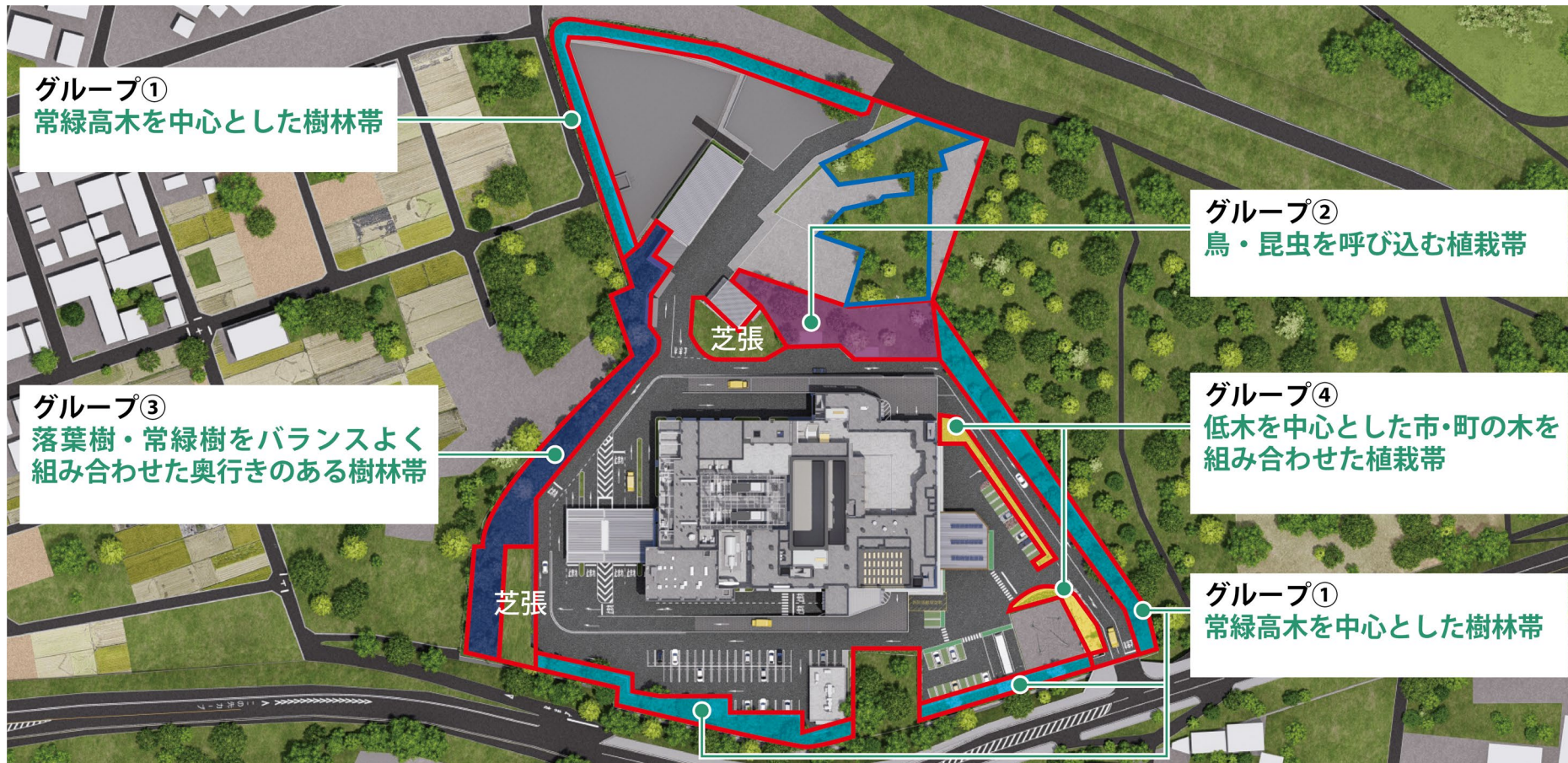
「つなぐ」交流を生み出す緑

- ◆**住民参加型**の緑づくりや出前教育等の啓蒙活動実施

環境保全と生態系ネットワーク形成に配慮した緑づくり



敷地全体を「森のビオトープ」として創生し、 あいちミティゲーションにおける「代償」措置実施



POINT

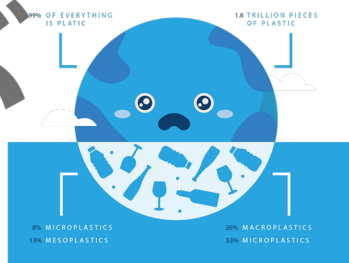
残地森林部の環境改善と植栽による森林再生を行うことで、
周辺環境と調和した多様性のある森づくりを推進

資源循環を施設全体で考え啓発する施設

Re-STATION

地域の未来につながる様々な『Re(再生)』からはじまるものを発見する場所

学ぶ



考える



3R + Renewable

知る



共創する



POINT

訪れる人たちに資源循環を考えるきっかけを提供

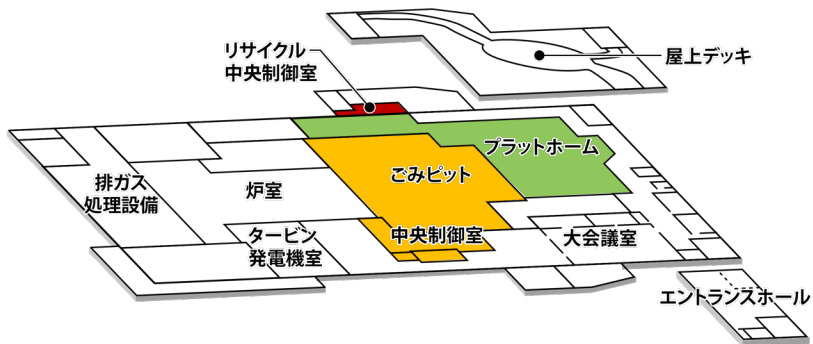
※3R: Reduce(ごみをできるだけ減らす)、Reuse(繰り返し使えるモノは繰り返し使う)
Recycle(繰り返し使えないモノは資源として再利用する)

大型窓から眺めるダイナミックな見学体験

リサイクル中央制御室



プラットホーム



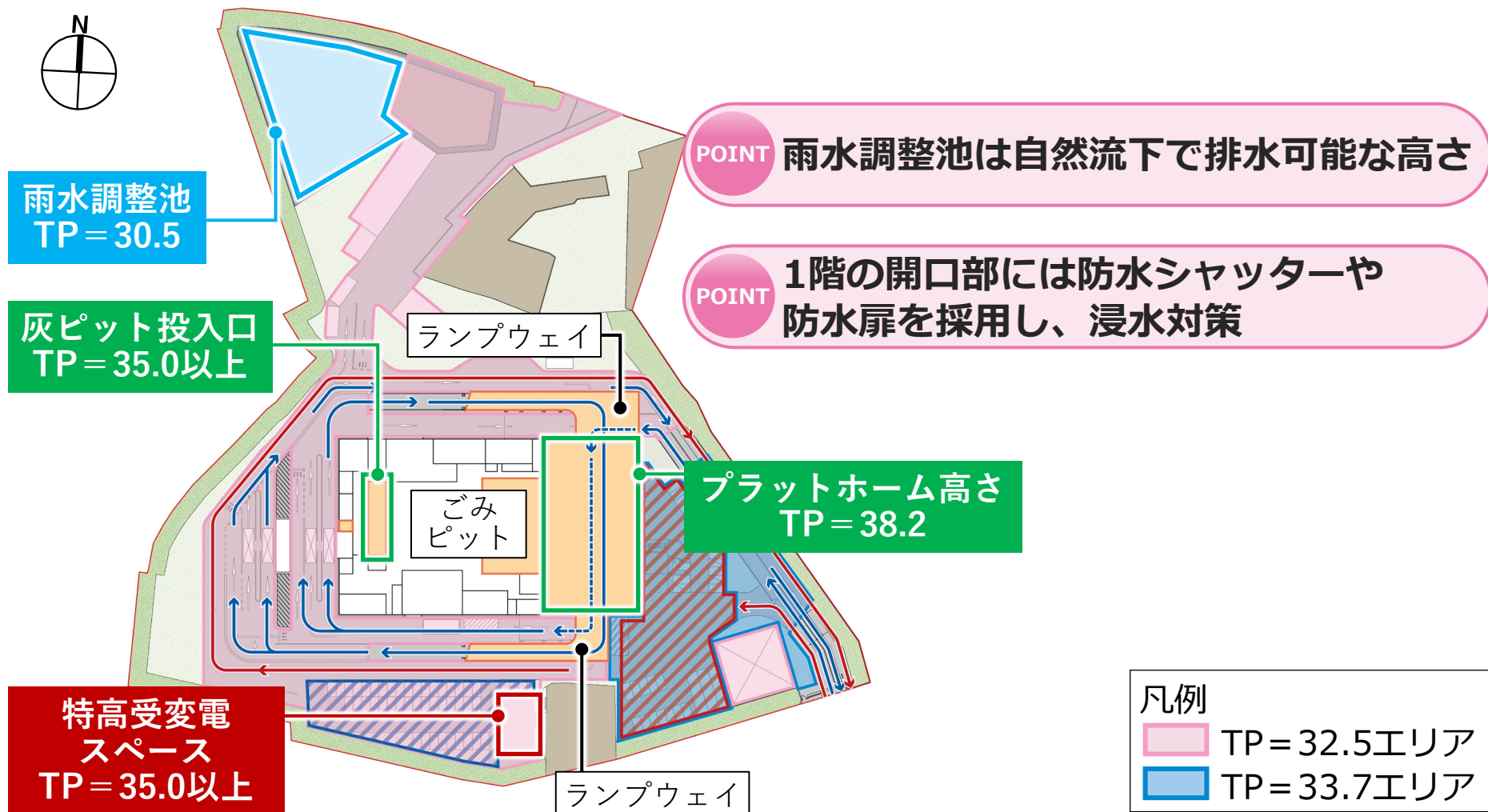
中央制御室 & ごみピット



POINT

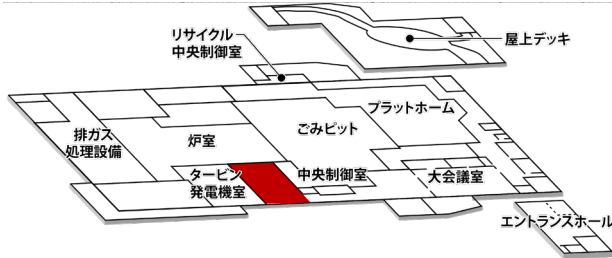
稼働中の設備や作業者の様子を
間近で見学可能なバリアフリー空間

安心安全に配慮した用地造成対応



見学者ホールのフェーズフリー化

* 平常時と災害時というフェーズ(場面)に関係なく役立つ設計



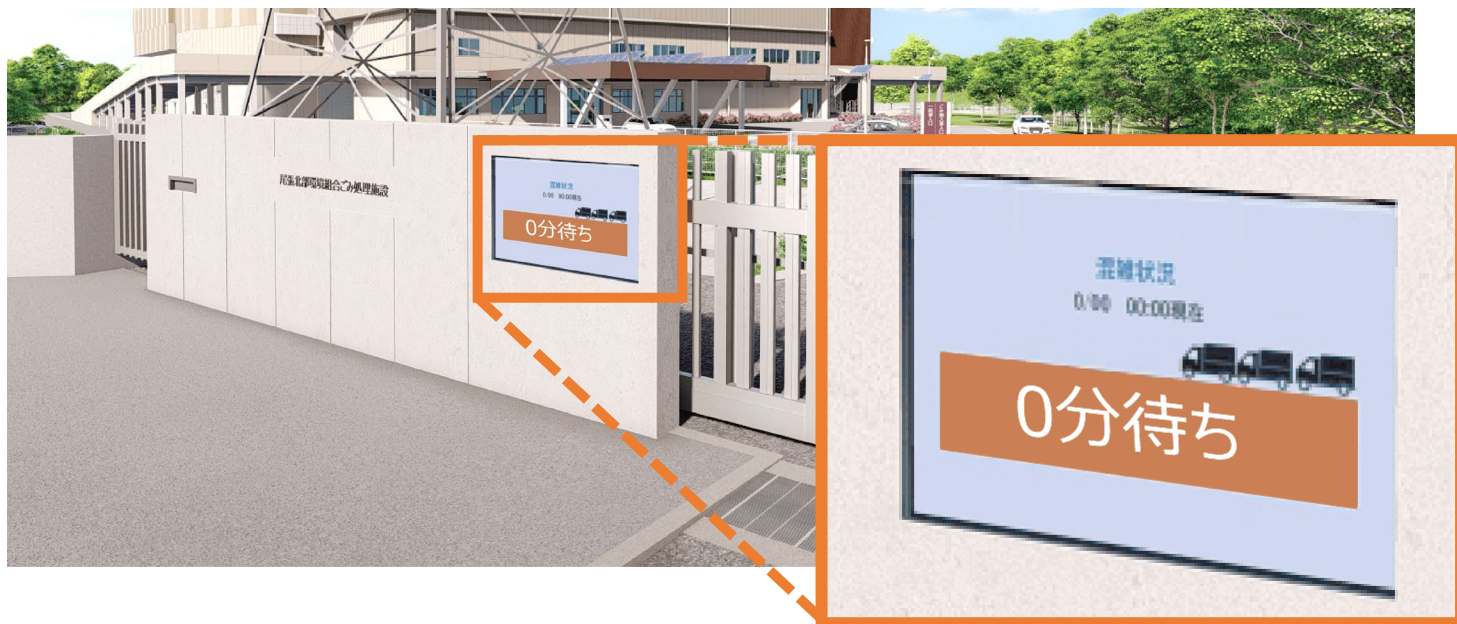
見学者ホール



POINT

平常時は見学引率の溜まり場として、災害時には見学者のための空調完備の受け入れスペースとして利用できるよう、壁面中心の展示空間

平常時も災害時も住民生活に有用な情報を発信



施設入口デジタルサイネージ(例)

POINT

デジタルサイネージに場内混雑状況や地域広報内容を掲示

POINT

災害時HPは文字中心の低通信負荷モードに移行し、確実に必要情報を提供

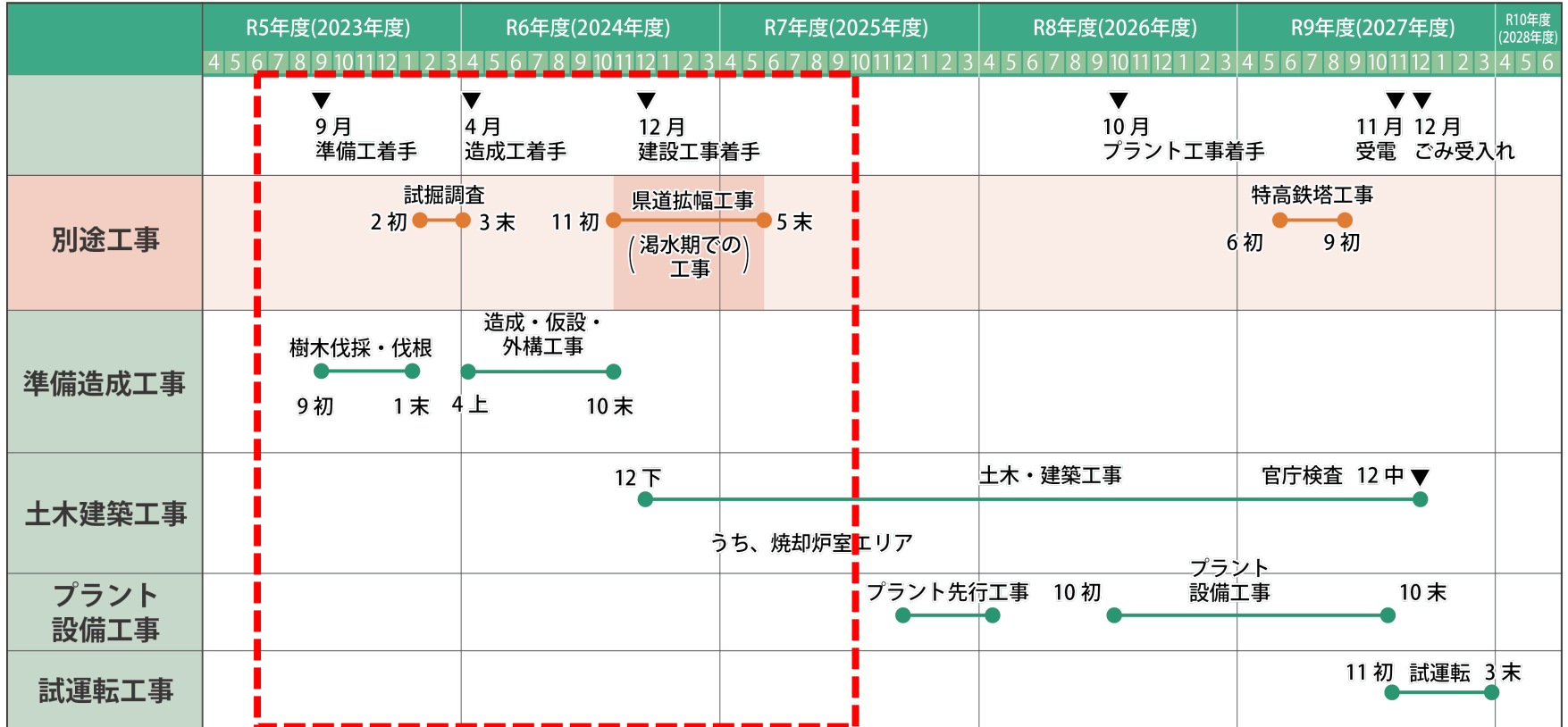
3 全体工事計画

1. 全体工事工程
2. 工事車両搬出入ルート
3. 工事車両台数と安全対策
4. 工事期間中の環境保全

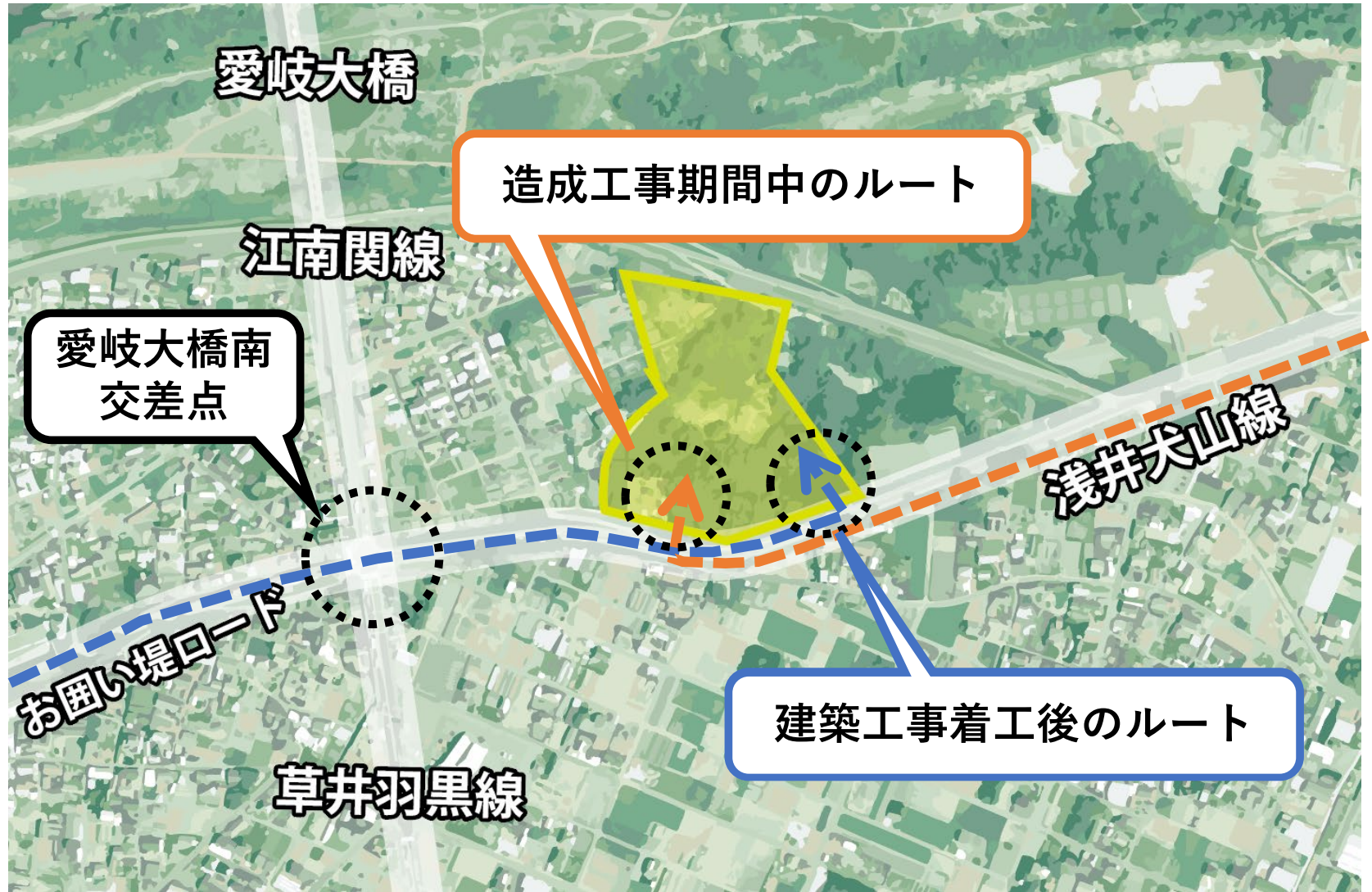
4 直近の工事予定

1. 伐採伐根工事
2. 工事進捗状況のご案内

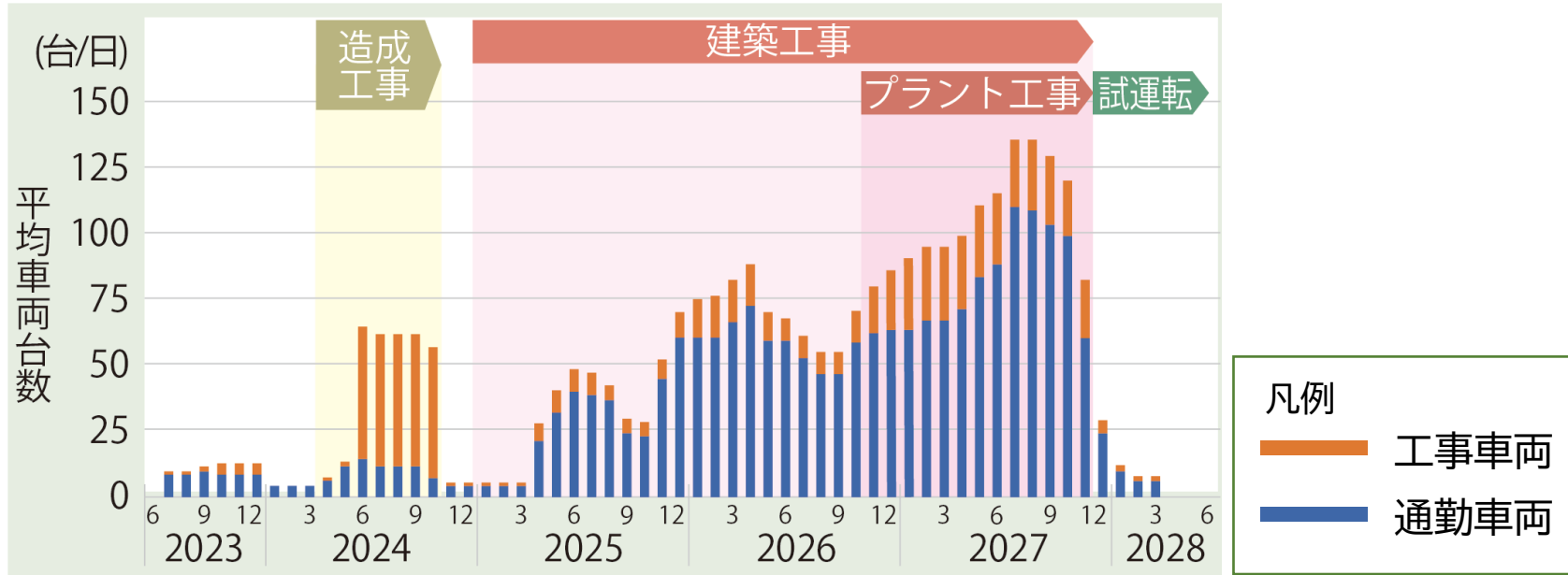
3-1. 全体工事工程



3-2. 工事車両搬出入ルート



工事内容・車両台数計画に応じた動線計画・用地計画



造成工事期間中の安全対策

POINT 工事車両は県道の交通量の多い7時30分から9時までは入出場を禁止します

POINT 9時以降は誘導員を配置し、一般車両との交通災害発生を防止します

建設工事中の渋滞対策

POINT 県道拡幅工事後速やかに本設乗り入れ路を完成させ、渋滞を発生させないように左折入場・左折出場

POINT 朝夕の通勤時間帯を避け、相乗りのルール化などにより低減

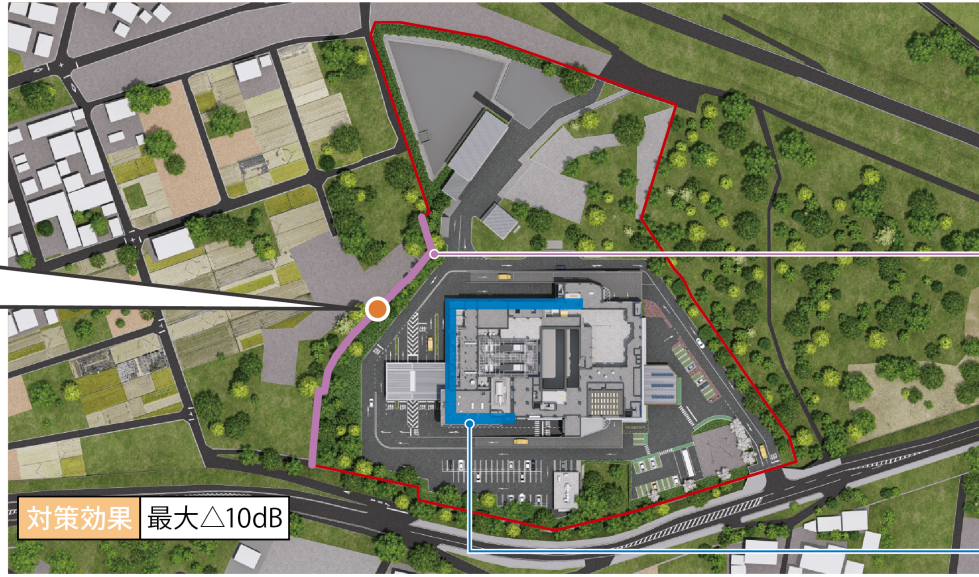
3-4. 工事期間中の環境保全

近隣住民に配慮した騒音・振動抑制対策

騒音・振動計設置



自主規制値超えた場合はパトランプにより周知し、作業の変更等の対処を講じます。



工事車両による土砂流出と粉じん飛散への対策



地域と繋がるオープンな現場



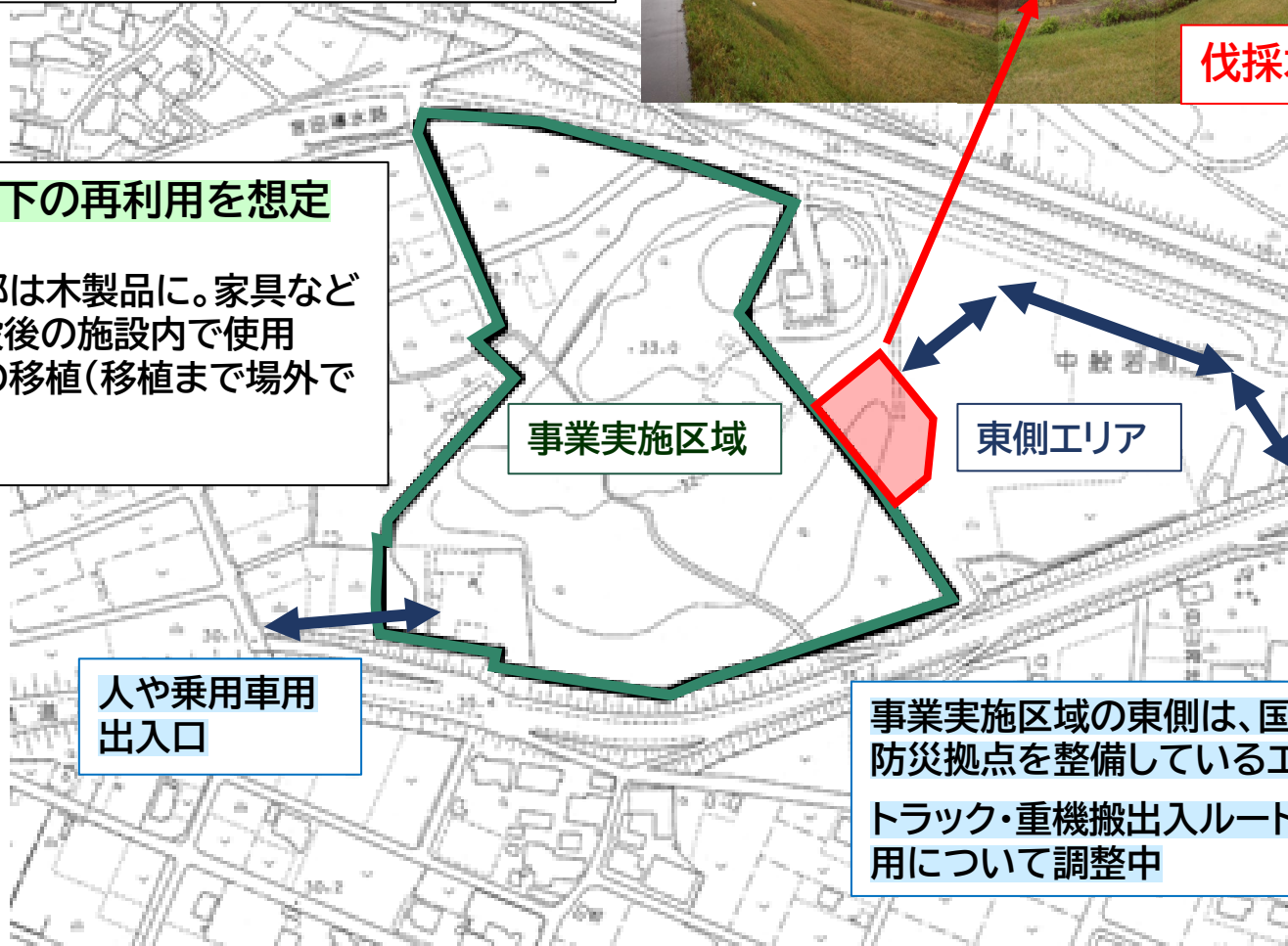
4-1. 伐採伐根工事

工事期間: 2023年9月～2024年1月
(準備は8月中旬頃より)



伐採木は以下の再利用を想定

- ① 幹材の一部は木製品に。家具などに加工し建設後の施設内で使用
- ② 既存樹木の移植(移植まで場外で保管)



- 工事着工後は進捗状況を地域の皆様に発信するためのホームページを公開します。
- ホームページは、組合ホームページ www.owarihokubu.jp からリンクを貼る予定です。
- 開設時期は8月中旬頃を予定しております。

住民と環境にやさしい
安全安心の処理計画

ゼロエミッションの推進

人と自然との共生、地域との調和を醸成する

『循環型社会実現施設』

災害に負けない
強靱化対応

Renewable
再生可能

Reduce
発生抑制

Reuse
再使用

Recycle
再資源化

地域密着(コミュニティ型)の
施設運営

ご清聴ありがとうございました

